

第 4 回 佐々町行政経営改革委員会会議録

1 日 時 平成 27 年 3 月 3 日（火）10:00～12:00

2 場 所 佐々町役場 3 階会議室

3 出席者

○行政経営改革委員会委員

委員長 石原俊彦（関西学院大学大学院教授）

委 員 奥山忠裕（長崎県立大学准教授）

委 員 荒木みちる（横尾みちる税理士事務所 税理士）

委 員 峰野裕二郎（住民）

委 員 北村 誠（住民）

委 員 中村尚広（住民）

委 員 中川由美恵（住民）

○事務局 企画財政課 水本課長、今道補佐、落合係長 ほか
総務課 川内野課長

4 会議内容等

①開会（企画財政課長）

ただ今から第 4 回行政経営改革委員会を開催させていただきます。まず、委員長よりご挨拶を頂きます。

②委員長挨拶（石原俊彦）

それでは委員の皆さん今日もよろしくお願いします。審議案件ということで、役場の方で資料を作成していただいておりますので、ご説明を頂いて意見交換ができればと思いますので、どうぞよろしくお願いします。

○企画財政課課長補佐

〈資料に基づき説明〉

○石原委員長

資料一式のご説明と答申書の素案ということでありますが、素案は横に置きまして、いろいろご意見も賜りたいと思いますので、ご発言をどうぞよろしくお願いします。関係者のご意見もあると思うんですが、物理的に何処に建てられるかというようなことを、もちろん新たに民有地を購入するということであれば、まあいくらでもできるわけですが、なかなか財政的にそこまでは厳しいだろうということで、

現状の小中学校の敷地でありますとか、あるいは現在遊休の町有地、写真で見ただけでしたが、そういったところで行けるだろうかというようなところから少々絞り込みをしていただきまして、その上でこの素案に辿り着いたというところが一番の大きな、素案を作成する上での柱ではあるんですけども。しばらくご意見を頂ければと思いますのでよろしくお願いします。

○奥山委員

学校の敷地内に新たに建てた場合に、例えば防災とか避難訓練上の問題とかありますか。

○事務局

資料の 16 ページとか 17 ページの両小学校を見ていただくと、基本的には佐々小学校であれば、校舎からの避難誘導に際しての課題は無いかと思われます。口石小学校についても、写真の下側の方が教室棟になっておりますけれども、出入り口のところをしっかりと確保していけば防災面の問題はクリアできるのかなと思われます。中学校についても仮にグラウンドに作ったとしても問題はないのかなと思います。

○中村委員

いろいろ考えました。校長先生と PTA の歓送迎会の時期でもあり、各校長先生とお話をする中で、「どうなったね。この前の給食を食べた時の話は。」と聞かれたり、「進みよるとね」という話になったもんだから、答申書は出来上がりつつありますという話をしたんですけど。やはり校長先生方の話としては責任の問題ということもあるんでしょうけれども「自校方式はもう無理って。」と言ってらっしゃいました。私としては、理想的には各校で美味しい匂いがして、美味しい給食をということをやっと言い続けて、温かいものを提供できると言っていたんですけど。「じゃ、校長先生、温かいもの食べれないんじゃないですか。」と言ったら、「何ば言いよっとね。中村さん。今の持っていく容器とか、そういうものは素晴らしい容器になっとるけん、そんな一か所でぱっと分けたところで、しっかりとできる。」という風なことを仰られました。そうした説明経緯を含めまして、ここに出ている答申書素案を見ると、遊休町有地か佐々中学校の敷地あたりにという風な、新しい給食センターという方針になりつつあるんですよ。現状としては。

○事務局

まだこれはたたき台として、先ほど委員長からもお話を頂いたんですけども、これまでの皆さん方の意見を集約していく中でどうしても場所の制約というのがあ

ったものですから、一旦たたき台として出すうえでこういうまとめ方になったということでもあります。もちろん、ここでこういう方向に進めますということではないかと思いますので、改めてこれをたたき台として、最終的なまとめをしていただければと思います。

○中村委員

もう一つ気になるのが中学校の敷地、中学校も駐車場が実際なくて、そうした状態の中で、そこに給食室ができた時にどういう風になっていくのかなと。駐車場は先生方が停めるのもままならない状態の中で、その辺の敷地的な問題もクリアできる部分でいけば、町の遊休地をとということも、今まで全く頭になかったんですね。今までの自校方式が一番っていう風に考えていました。それが一番と考えていた私が、なぜか最近ちょっと責任的な問題という部分で。校長先生はもう一つはアレルギーのことも言われたし、もう一つは人口減少っていう部分で、人はどんどん減って行って、小学校中学校がどんどん人数が減っていったときに、3校とも改修して自校方式にしたときに、それがどこまで良い影響を出すのか、若しくは余って勿体なくなってしまうのではないかというそういった不安もありました。理想を言えば、自校方式はして欲しいとこなんですけど、もしも建替えるとすれば新しい町有地に建てて、センター方式でそこから温かいものを運ぶというのものもあるのかなと思いました。

○峰野委員

今の中村さんの話で、学校長の責任とか、あえて言うと調理現場の環境が劣悪というか、そこからの視点、観点というのがあるんでしょうけれども。私一番重要視しなければいけないのは食物アレルギーで命を落としている子がいるんだということですよね。この調布市の食物アレルギーの報告書の冒頭にあった女子を亡くされたご両親のメッセージというのは、私は、これ謙虚に受け止めなければいけない。つまり、この食物アレルギーによって、学校給食で食物アレルギーを持つ子が命を落とさないための在り方というのを第一義的に考えていく必要があるんじゃないかと思うんです。

○北村委員

子ども達に給食の香りをとかなですね、そういうことも分かるんですけど。答申書素案の方が無難ではないかと思うんです。心の問題もあるかもしれないんですけど。口石のアレルギーの対応の仕方を見たときに、これは危険極まりないということがありますんで、やっぱり一か所で嚴重にチェックできる場所というのが必要だから、町の遊休地があるんですから、そこに新しく完璧な素晴らしい建物を建てて、そこ

から配達し、美味しいものとかいい香りとかというものは、そこで作っている人たち一生懸命やっていますから、子ども達に伝わると言うんですよね。やっぱり汗をかいて、きつくて大変だっていうおばちゃん達の姿を見て、有難いとは思うかもしれないけど、そこで働いている人達は大変だと思うんですよね。やっぱり、一番は衛生とかアレルギー対応とかを考えると、予算の問題全てをセンター方式で、例えば、町の遊休地を使ってということにしないと、これをまた同じことに戻ってやっていたら前に進まないないし、何回も話し合った意味がなくなるという可能性があると思います。

○荒木委員

私も安全性とか責任とか管理を考えるとセンター方式が良いのかなと思うんですけど、場所については佐々中学校というのが丁度中心に位置していますし、中学生になると近くで給食ができるという環境になることでいいのかなと思うんですけど。駐車場とか、これでいくとプールとかを無くさないといけないのかなと思うと場所は難しいのかなと思うんですけど。そう考えると他の町有地が良いのかなと思うんですけど。できれば佐々中学校の近くで何かできる方法がないのかなと思います。

○中川委員

現段階で子供が小学校に 2 名お世話になっています。私も随分前回の会議から悩みました。結論から言うとセンターにする方が簡単ですよね。でも私は自校方式を推したいと思いました。なぜかと言うと、私なりに知人とかが佐世保の給食センターで働いていて、そういうことに関わっている人とかを沢山職業柄知っていたので、自分なりに調査をさせていただきました。給食センターの良いところ、メリット、デメリットを教えてよと言ったら、断然メリットの方が少ないんですよ。ビックリしました。温かいものが食べられる良い容器があると今言われましたけれども、冷えてくるそうです。そして断然センターになった時点で給食が残ってくるんだよと。結果は明らかなので、佐々町頑張れと言われました。それを聞いてから私は最終的にセンター方式でもどちらでも安全性や子ども達の食育に繋がることを守って頂ければどちらでもいいです。でも小学校に通わせて卒業はしていくわけですよね。その時に、今回建替えた時には、直ぐ建て替えをすることはないと思いますので、私は自信をもって、この子ども達が大きくなるときに誇れるものを残してあげたいと思ったんですよ。その時に、何が良いのか。学校給食は大人の都合で給食センターを作るのか、自校方式でいくのか、大人の都合を省いたときに、だったら何のためにこの話し合いをしているのかと自分に問いかけたときに、子ども達のためじゃないかと思ったんですよ。子ども達のための給食を作るのに、なぜ大人の都合がそこに入ってくるのか。金銭的な問題、それから土地、色んな問題が出てくるけど、

それに立ち向かっていける大人がいてもいいんじゃないかなと思ったので、いろいろ私なりに考えました。それから、ちょっと私事なのですが、金曜日にある書類が学校から届きました。この書類はアレルギー食の対応をしている子ども達の保護者に対して配布されたもののようです。これを見て私はショックを受けました。うちの子どもの4月からお弁当を持たせないといけなような内容でした。今対応していただいていることが全部崩れて対応ができる人、できない人、その原因は丁寧な言葉で書いてあります。私なりに解釈したときに、経営改革委員会の人達が、ごめんなさい、色んな人達にご迷惑がかかると申し訳ありませんけど、私と主人とそれからアレルギーを持つ子ども達の親から私に電話がありました。「あなたは、何しに委員に入ったとね。」と言われました。その時に、「あなたに託すものがあったから、頑張ってくれて言ったとよ。じゃ4月から私達弁当たい。」と言われたんですよ。でも私は弁当でもいいんです。それが学校のために安全性や色んな人達の良いことに繋がるのであれば。アレルギーを持つ子どもの親というのは、だいたいちょっと皆さんに申し訳ないと思っている気持ちがあるのではないんです。皆さんにご迷惑をかけるのであれば、折れる気持ちを常に持っているんですよ。その時に、この給食の時に経営改革委員会の委員の皆さんがあんな状態で作るのは大変じゃないかというご指摘があったので、4月から改善しますのでお願いします。という文章でした。私ショックを受けました。これを見た時にですね。私何も言ってない。作るのを止めてと言うわけない。と思ったんですよ。4月からガラッと変わって、弁当を持っていけないといけな親が増えました。ということはお弁当箱を買わないといけな。お弁当の準備をしないといけな。だから家庭環境が変わるわけなんですよ。だからお弁当持っていくのは良いんですけど。その前になぜ話し合いをしていただけなかったのか。こうしたコミュニケーションがここでも取れないのであれば、センター方式にしたらとんでもないことになるぞと思いました。そして、事務局の方が今回の委員会資料を持て来られた時に、色々と話をさせていただいたし、色々とお話を聞きました。では、絶対できないんですかと聞いたら、絶対ではないと言っていたので、そうであれば、絶対ではないところに全てをかけてみるのも頑張ってみる価値があるんじゃないかと思ったところです。そこで口石小学校には先生方が利用されている駐車場がありますが、その代わりになる場所もあるようですし、また、佐々小学校も最終的に校舎を建替えないといけなのであれば、どうにかしてできないかという方向が検討できるんじゃないかとか。結果として、凄く頑張ったけどあなた達を守るためにセンター方式になりましたという風に言いたいと思い、気持ちを切り替えることができました。私も正直前回までは皆さんの意見を聞いていて、中村さんと一緒に自分の一本柱が崩れかけていたんですけど、このお手紙が来たのと、事務局の方とお話をしたことで自分の中で整理ができて、佐世保のこのことを聞いてみると、自校方式を是非子ども達のために作っていただけ

ないかなと委員としての立場を超えた親の立場でのお願いをと思い今日は気持ちを言わせていただきました。

《教育委員会が発した文書の件でそれぞれに雑談あり》

○中川委員

文書については皆さんに見ていただきたい。相当な数の人がお弁当になってしまいます。4月からです。この話は私達にはされていません。そうであれば面談をしていただきかったです。親も分かっているんです安全性が高くないということは。私以前から前校長先生の時から話をしているんですけども、本当のアレルギーの実態を知って下さいって言っているんですよ。皆さんアレルギー、アレルギーって言われるけど、アレルギーイコール怖いものというイメージをされていますけど、本当に怖いものならば、うちの家庭は崩壊しています。だから、そうではないんですよ。あり方、やり方というのを間違えなければ、ごく自然に生活ができるので、亡くなった子どもさんのことも、私もアレルギー協会とかからの情報もあるので、その原因というのは給食室の中で起きていることではないんですね。アレルギーを持つ子の親というのは、自分達でも責任を持たなければいけないと常日頃言っています。子ども達に分からせること。だから、うちでは給食が違うときには、朝から学校へ送り出す時に「今日の給食は水色だからお替りしたら駄目よ。」と言って送り出すんですよ。もう分かっているので、給食のお皿の色が違ったらお替りをしたらいけない。先生も今日は色が違うからお替りをさせたらいけないと。意識をもって、親が子どもに躡をしていくわけなんですよ。この（調布市の）子の場合は、給食は変えられていたはずなので、お替りをしたそのお替りが原因だったんですよ。そこで、エピペンの使用っていうのは許可なく打つことができるので、それに対する意識というのが全体的に薄かったということだと思います。そのエピペンを打って命に関わる事は無いんですよ。アレルギーじゃなくても、そこで打って何か反応が起きるわけではないので、そこで、これぐらいは良いんだということも覚えていただかないと、ダメダメばかりではなくて、ちゃんとした知識というのを少し全体的に持っていたかかないと、アレルギーばかりが目立って普通にアレルギーではない子ども達も守れなくなってしまう。責任云々という話がありますけど、何か起きた時に学校の校長先生だけに責任を問うのではなくて、アレルギーを持つ子ども達、それから親もやっている責任があるという話をしていったらどうかなと思います。全責任を、学校関係者の人達に追及するのは良くないと思います。育てているうえでの親の責任というのにも必要になってくるので、そこは厳しく親にも言うべきではないかなと私は思っています。

○峰野委員

中川さんのような高い意識を持った方々ばかりではない。子供が寝ているときに
出て行って、寝ているときに帰ってくるというような生活をなさっておられるよう
な方もいらっしゃる。そういうことを考えると、保護者の方も意識を持っていた
くということになるでしょうが、一般的に厳しいところがあると思います。調布市
の事故の問題で、アレルギーだけが原因ではない、お替りをしたことによるという
ことでした。でも根っこのところではアレルギーを持ってらっしゃる。

○中川委員

そうです。給食センターで起こっているという風に皆さん勘違いをされているん
ですよね。センターでは、給食室では完璧な対応をされているんですよね。その状
況が衛生基準に達していない給食室ではあったのかもしれませんが。だから、そこ
で起きたわけではなくて、事故が起きたのは教室なんですよ。

○峰野委員

ですから、責任問題という話もあるでしょうけれども、それ以前にやらなければ
いけないことが、中川さん仰るように、校長さんをはじめ関係者の意識を上げる、
知識を高めるというようなことがあると思うんです。とにかく、命を亡くさないよ
うなあり方というのが第一義に取り組む必要があると思うんですよ。根っこのと
ころで考える必要があると思うんです。これは公の問題ですから。

○奥山委員

基本的にこの委員会ではまだ結論を出しておりませんので、この委員会の名前で
審議中のしかも不確定な内容をあたかも結論が出たかのように保護者の方に文書
を送られると誤解を招くことになるので、しかも自校方式かどうかというのは審議中
の案件ですので、それについては訂正文を全員の保護者にお送りいただきたいなと
思います。

○事務局

この件につきましては、教育委員会に確認をさせていただきたいと思います。

○石原委員長

皆さん方の意見を総合的に斟酌して、アレルギー食に誠実に対応していこうとい
うのが皆さんの意見だと思いますので、それで財政の話はありますけれども、ひと
まず横に置かせていただきまして、皆さん方のご意見からすると“見える給食”“温
かさ”というところがありますが、保温食缶などのこともあります。私自身は“見

える給食”の重要性は良く理解していますけれども、どこかで作ってできる限り“温かい給食”を提供できる容器ですね、配慮するというのは答申に入れられると思いますので、もし温かさというところがポイントなのであれば、答申には良い容器を使っただくとかですね、そういう形で対応させていただくのであればそのようにさせていただくということでどうかと思います。それから、先ほど中川さんのご意見の中で事務局の方が仰ったという“出来ない事は無い”ということを私なりに解釈すると、学校給食だけに子ども関係の予算を投じるのであればできると思うんですよ。だけど、アレルギーとか子供さんが抱えている課題というのは様々あると思いますので、非常に残酷な表現になるかも知れませんが、ここはバランス感覚というのも我々は考えた方がいいので、そうすると三つの小中学校、敷地を工夫するとか、狭い中に作るとか、危機管理の問題は横においても、やはり財政的には厳しいので、作るのは共同調理場か小中学校のどこかに作る親子給食方式か、容器は最善のものを使うと、アレルギー食には誠実に早急に対応すると、というようなところの答申を出せればと思うんですが、皆さんのご意見をお願いします。

○中川委員

親子給食方式というのは間を取った方式で私は良いなと思います。

○石原委員長

当然、3分の1は見える給食にしないといけませんので。それから仮に中学校に設置すると、子ども達が少し大きくなってからですが、必ず見る事ができるんで。ということは言えますね。

○中川委員

〇石小学校って敷地的には結構大きいんですよ。中学校の方は敷地的に厳しいんじゃないですかね。中学校はプールを取り壊さないと敷地が確保できそうにないんですよ。

○荒木委員

〇石小学校だと、〇石小学校だけになってしまうのかなと思います。

○中川委員

〇石小学校から中学校に配送する親子給食というのもあるのかなと思います。だったら、佐々町らしく給食センターでもないけれど小学校では見える給食ができるんじゃないかと思います。私も最終的にはセンター方式でも良いと思ってはいるんですけど。でも、心の奥底では皆さんも自校方式が良いと思っていらっしゃるんじ

ゃないかと思いますので、どれだけ思いを載せられるかと考えると、アレルギーばかりを注目していただかなくてもいいと思います。アレルギーというのは対象者が一握りなので、私たちはお弁当を持ってきて下さいと言われれば持って行かせてもいいんです。それよりも全体的なことを考えて“見える給食”をしていただくといいいのかなと思います。そういう意味で、口石小学校と佐々小学校にはスペースがあるのかなと思います。佐々中学校のプールを取り壊すとなれば新たな議論も起こるのかなと思います。

○石原委員長

小中学校というのは義務教育なので、アレルギーのお子さんだから弁当でしょというのは避けるべきなんだろうと思うんです。給食の中身は違うかも知れませんが、同じところで、同じように食べるというのが食育なんだと思いますよ。それが一番最初に対応すべきことだと思いますので、それを各校で対応するとなるとそれに責任が持てるかと施設も必要になりますし、建設費なども厳しいので親子給食方式でということです。3校の整備は必要ないと思いますが、どこが一番現実的なんですかね。答申書素案では、中学校の敷地を書いていますけれども、中川さんの意見にありましたように口石小学校と佐々中学校を比べると、なぜ佐々中学校の方がいいのかということを事務局からご説明いただけますか。

○事務局

この答申書素案にまとめる中で佐々中学校の敷地としておりますのは、町の中心部から配送ができるということで整理しております。仮に口石小学校だとすると口石小学校は自校方式になりますが、佐々小学校は口石小学校からの配送になりますので両小学校のバランスを考えた時に佐々中学校の敷地内での検討としたところであります。しかしながら、課題は佐々中学校の場合プールを取り壊さないといけないということがあります。また、1,500食の調理において、場合によっては民有地の相談も必要になります。答申書素案としてまとめさせていただいていますが、いくつかの課題もあるところです。また、中川委員さんが仰るように両小学校を拠点として中学校に配送するという形式を取れば両小学校においては学校の敷地内で解決できる面もあるかと思っています。

○石原委員長

すみませんがプールのない中学校っていうのはどうなんですかね。

○企画財政課長

中学校の体育館を建て替える際にプールの敷地を含めた整備の話があり、その際

にはマックスバリュ横のスイミングスクールの活用を検討した経緯はあります。

○事務局

佐世保市内の中学校にはプールが無いところもあります。

○奥山委員

今の中学校のプールの件については、今あるものですので、なるべく潰すとかという話はしない方向で話をしておいた方が現実的なのかなと思います。

○荒木委員

中川委員さんの話を聞くと自校方式の方向が良いのかなと思うんですが、現実的には財政面とか考えると難しいのかなと思います。では、どこかで給食ができる親子給食方式というのを模索したらいいのかなと思います。そうすると中学校なのかなとも思います。しかし、現実的に難しい課題があるのかなとも思います。

○中川委員

口石小学校だったとしても距離的にはそんなに無いのかなと思います。佐世保の給食センターの位置的な問題を考えるとそうでもないのかなと思いますけど。

○荒木委員

私は楠栖小学校の出身なんですけど、楠栖小学校ができた時に、同じ敷地に給食センターができて、小佐々小学校、小佐々中学校に配送するという形だったんですけど。その時に小佐々小学校の子ども達の気持ちはどうだったんだろうということそこは分からないんですけど。確かにセンター方式でしたけど楠栖小学校に通っていた感覚からすると近い感じはありました。

○中村委員

仮に中学校のプールを潰した場合に、そこから校舎まで持って行く通路の確保なども大変なのかなと思います。それから、何度も出てきていますが親子給食方式というのは、どういうイメージですか。

○石原委員長

3つの学校のどこか1か所に作って、親というのは供給するという意味なので、口石小学校に作っても親子給食方式なので。ただ、住民の皆さんの理解が得やすいのは皆が中学校に行くので見える給食という観点から中学校に作りますよという説明はしやすいと思います。

○中村委員

でも、現実問題はとなると難しいですね。

○峰野委員

先ほど奥山委員から話があったように、あるものを潰すというのは。プールを作るとなればどれくらいの費用が掛かるんですか。

○石原委員長

プールはこれから維持コストが凄く出てきますよ。

○事務局

プールを作るとなれば 1 億以上は必要になるかと思います。現在のプールも老朽化しておりますので、作り変えるのではなく、改修するとすれば 3,000 万円から 4,000 万円程度は掛かるかと思います。そういった補修の時期には来ていると思います。

○峰野委員

1 か所に作るということで考えたときに、学校の敷地内に作らないといけないということもないのではないのでしょうか。

○事務局

佐世保市は給食センター方式ということで学校の敷地外に作られています。親子給食方式ということになると 3 校のいずれかにということになります。

○峰野委員

親子給食方式に拘らなければ、別の場所でも良いんですよ。

○事務局

資料には参考のために遊休町有地という表現で付けておりますけれども、別途町づくりを議論していく中では、給食センターではない別の土地利用計画をという話も出てくる可能性はあるかと思います。

○奥山委員

条件付の答申というのを出すことはできないんでしょうか。今、中学校のプールの話が出ているんですけど、ここでは話はできなんじゃないかなと思います。望ま

しいのは中学校だけれども、プールの問題というのはどうしても出てくる。その問題を解決できるのであれば中学校に置くのが良いだろう。それがもし難しいようであれば小学校に置くという案を第 2 案として出すという、そういうやり方というのはできないんでしょうか。それとも 1 つに決めないといけないんでしょうか。特段なければ我々で話し合っても結論はどうしても出ないのではないのでしょうか。

○峰野委員

答申を出すというのは大事なことだと思います。でも、多様な意見があるわけですから、プールを残した方がいいのか、それとも潰してもいいのか、町民の方々、保護者の方々、給食関係者の方々、答申を早く出すという、答申を絞るのは大事だと思うんですけど、私はここで質の高い議論を積み重ねて、最終的には行政が声を受けて、今度は時間がかかるかもしれないけれどもアンケートを取ったりするようなことをすべきではないかと思います。

○石原委員長

そうですね。でもそれをやるとアレルギーの対応が遅れてしまいますので、それをどうしますかということになるんですね。プールの利用実績などを検討するとか、もちろんプールの必要性を看過していませんけれども、状況から斟酌するとプールを潰して作るという方法しか今は厳しいと思うんですよ。

○中川委員

佐々小学校は運動場の一部が使えます。〇石小学校も校舎と同じ程度の敷地があります。給食が頂ける食育ができているのであれば、佐々小学校という親がどれだけいるか。佐々中学校という親がどれだけいるかって思うんですよ。学校という施設であればいいんじゃないかと思うんです。

○石原委員長

いやいや、そうではなくてですね。論点が飛ぶとダメなんで、今ここで論点整理しないといけないのは、“見える給食” 食育というのが重要なので、自校方式のメリットというのは“見える給食”と“食育”と“温かい給食”ということですね。温かい給食は容器や配送等の工夫で対応していきましょう。“見える給食”については、もしこれが重要でないのであれば、小学校でも中学校でもいいし、親子給食方式でなければ中学校でなくてもいいので。私が今整理しているのは“見える給食”をやるべきであるという観点からやるならば 3 校で。〇石小学校か佐々小学校かということになると揉める原因になると思います。なぜ、〇石小学校なのか、なぜ佐々小学校なのかと。想像ですけどこれは中学校のプールを取り壊すこと以上に大変だと

思います。こういった審議会において考えないといけないのは、出す結論に対して将来どうなるかということ、よく考えたうえで出さないといけないということではないでしょうか。こうするとアレルギー食で困っている子ども達に、“他の子ども達と同じ条件で学校給食をやる”ということと、“見える給食”を維持する、それから“温かい給食”を維持するというこの３点なので、これを進めるためにどうしたらいいのかとした時に色んな意見は当然出ますから。もし、“見える給食”を外すというのであれば少し戻していいし、選択肢は広がりますので。

○峰野委員

まずは“見える給食”にするのかしないのかという価値観と。もう一つ“見える給食”にするんだったら中学校の方がより多くの理解を得られるよね。将来的にもそうだねということ。だとプールを潰さないといけないよねということ。また、プールを潰さない方法として“見える給食”を行うなら両小学校にどちらかがあるよね。それともう一つは“見える給食”にしないことにする。すると、センター方式で違う場所に作る。そのこのところの整理が出てくるんですね。

○石原委員長

総務省が昨年４月に通知を出しているんですけども、例えば佐々町が持っている様々な公共施設を総合的に管理する計画を立てなさいという通知が出ているんです。再来年までの３年間でやらなければいけないんですけども。それには中学校のプールも当然対象となります。佐々町の財政がそんなに良くないのであれば、佐世保市内の中学校にプールが無い学校があるのを見てもお分かりのように、中学校のプールはあればいいんですが、中学校のプールを潰そうとする選択する自治体は少なくないだと思います。そういうのも合わせ技での検討だと思います。この問題に限定すればプールの問題はプールの問題なんですが、公共施設等の総合的な管理計画の策定という総務省からの要請がきていて、双方を対応していこうとすればプールというのは最小の犠牲になるのかなという感じがします。それから、“見える給食”ですけど、具体的に申しますと小学生、中学生が自分とこの敷地内で給食を作って下さっているということに対して感謝の気持ちとか、給食に対する早く食べたいなとか、美味しかったなとか、片付ける大切さとか、そういうようなものを伝えるべきかどうかということをやっと元に戻して、あるべき論ではなく、もう皆さんには色々議論していただいたわけで論点化がされているわけですから、その中で佐々町としてそれに拘るか、どうかで動いて頂ければと思うんですけども。それで、それが決まれば用地の設定を３校の中でするかどうかが出てきますし。どうでしょうか。

○峰野委員

“見える給食”、“食育”、それ大切だよねということを考えると、やっぱり中学校かなと思うんですね。要するに小学校のどちらかに置くと、それを知らないで小学校、中学校生活を過ごしていくことになってしまいますよね。先ほどの話でプールを、今あるものを潰すのはどうかなと思っていたんですけども、夏休みのプールの利用があると思うんですが、小学校では多分やっていますよね、中学校ではやっていない。そんなことを考えると、委員長も仰ったようにこれからのメンテナンスなんかを考えるとコストが掛かってくる。しかも総務省からの通知も来ているということから総合的に考えていくと、中学校のプールを犠牲にしてというのが、結果として、そちらに収斂していくのかなという感じがします。

○中川委員

中学校には、佐々小学校の子も口石小学校の子も絶対中学校に行くわけなので、親に対するスムーズな説明ですよね。絶対通り道なので。佐々小学校の子は口石小学校には行きませんから。中間であるということと、子ども達は絶対にそこに行くんだということを考えると、そこも一つの意味合いが深くあるのかなという気がします。小学校のプールとかを中学校が使うことは出来ないんですか。

○事務局

中学校の実態としてプールの授業は6月、7月だったと思います。部活動では、10月ぐらいまでは利用するかもしれませんが、それ以外はマックスバリュの横のスイミングを利用しているといった状況です。

○奥山委員

今のお話を聞きますと、プールの利用状況というのは非常に低いようだということ。維持費も非常に掛かるということと。国の方からも通達が来ているということ。費用対効果がよろしくないんじゃないかということ。そうしたことを考えると残念ながらところはあると思うんですけど、食育の観点で全ての児童生徒に対して給食を供給していくということが重要なんじゃないかと思いました。

○中村委員

佐々中学校にセンター機能を持った給食室を作ったとしまして、口石小学校と佐々小学校の今の給食室はどうなるんですか。

○企画財政課長

一つ考えられるのは、4年生から6年生までの学童保育の施設というのがありま

す。

○中村委員

両小学校において、現在の給食室が空きスペースとして有効活用できるのは良いですね。

○石原委員長

学童保育施設の件は、例えばということで答申書に盛り込んではいかがでしょうか。

○中村委員

引っかかる面があるとすればプールの件なので、なぜ佐々中学校なのかという面で、両小学校の給食室の後利用として学童保育の利用としても活用できるという考え方もありますよと言えると思います。まあ、納得は得やすいかもしれませんね。

○石原委員長

まあ、後は資金面ですね。それから容器とか配送の問題は検討していただかないといけませんね。

○中村委員

先ほど中川委員さんが仰っていたように、佐世保は冷めているという話もあって。

○中川委員

（自校方式に）戻してくれという学校もあるというように聞いています。

○中村委員

それは給食センターから学校まで遠いからということもあるんでしょうね。

○中川委員

そう思います。

○中村委員

佐々町みたいに近くて、短時間で移動できれば違うでしょうからね。

○中川委員

給食が親子給食方式で出来れば行ってほしいなということで、付け加えさせて頂くと、結局、佐々小学校と口石小学校は給食室が離れるわけなので、なおさら先生の意識は高めていただきたいという願いが一つあります。給食室が目の前にあると先生方が子ども達に言って下さるんですけれども。その給食室が離れるということは、先生方に託されるということになるので、アレルギー対応は怖いというイメージを凄く持たれているので、腫物に触るような思いで触られているので、校長先生に私は、私ぐらいのレベルでまず入って頂けませんかと言っているんです。あまり病院の先生のお話を聞かれると怖くられるんですよね。医療的な事を言われるので。まずは協会にいる私たちぐらいの話を聞いて頂いてと言っではいるんですけど、まだ叶ってはいませんが。私の子どもがお世話になっている病院の先生もいつでも学校に行きあげるとは言っただけでいるんですよ。学校の先生達にもそんなに怖くないですよということを理解してもらいたいという願いがあります。

○石原委員長

中川さんが仰った件ですね、栄養教諭がいらっしゃるでしょう。栄養教諭がリーダーシップをとって、そういうこともやってほしいと言うべきでしょうね。当然範疇ですから。その際に協会の方にもうまく関係していただいて、現場の先生にも医療行為云々という不安を持たれることなく内容をご理解いただく。そこで、栄養教諭を入れておかないということになるのではないのでしょうか。

○中川委員

先生にお願いしをしたんですけど。アレルギーはまた別の分野になるので。

○峰野委員

防災と同じだと思います。死者が出た地域は防災意識が高くて。これ事故が起きると意識が高まるのかもしれない。事故が起きていないから、先ほどの話にもありましたけど。

○石原委員長

意見の整理がつきつつあるなと感じますが、他にご意見はありませんか。

○石原委員長

意見が無いようでしたら、まとめてみますと、まず素案ですから、これを案にして、今日審議をさせていただいたところは整理をして、答申書ですから説明の文章は別紙にして、答申内容としてはシンプルに、センター方式であると、親子である

と、中学校であると、学校給食に対する誠実な対応であると、温かい給食に対しての容器云々の配慮、アレルギーに関しましては民間の力を借りて栄養教諭が中心となって現場の先生方に対する正しい知識の普及を図って頂きたい。というような感じで答申まとめていただいて、その背景になった資料は別添で付けていただくということでまとめていただければどうかなと思いますが。漏れているところがあったら皆さん方のご意見をお聞かせいただければと思いますが。

○中川委員

先ほどお話ししたアレルギー食の対応を変更するという学校からの文書取り扱いをどうしましょうか。

○石原委員長

総務課長、対応をお願いします。

○総務課長

その旨、お伝えします。

○石原委員長

では、本日は以上で終わりますが、次回が答申ということになるかと思いますので、委員の皆さんよろしくお願いします。では、事務連絡等は事務局よりお願いします。

○企画財政課長

次回の開催の日程については、4月3日（金曜）の13時30分からとなります。

以上をもちまして、第4回の経営改革委員会を閉会いたします。委員の皆様、大変お疲れ様でした。